

広報 えびな



市の木 つげ



市の花 さつき

◆ 大字紹介 ◆

すくは 杉久保
めと思われる。

杉の生い茂った
産地があったた

発行・恵老名市役所・恵老名市国分155/編集・秘書広報課/電話・31-2111(代)/〒243-04

毎月1日・15日発行



①二見 チヨさん



②相原甲子郎さん



③美濃津 直さん



④鈴木 ツマさん



⑤田村 小竹さん



⑥長野 ヒデさん



⑦田口 スエさん



⑧塩月 秀吉さん



⑨三浦 み祿さん



⑩赤木 タヨさん

9月15日は敬老の日 市内高齢者 ベストテン

みなさんの横顔は

八月一日現在で市の人口は九万二千八百四十四人。そのうち六十五歳以上の方は五千二百二十二人(人口比率五・四%)います。九月十五日は「敬老の日」ですが、私たちはこれら人生の大先輩から学ぶことがたくさんあります。「敬老の日」に限らず、長年社会に貢献してきたこれらの方々を敬い、たいせつにしていきたいものです。今回は市内高齢者上位十人の方々にスポットをあて、お話を伺ってみました。

①二見チヨさん(97歳)

市内最高齢者の二見さんは、今までに医者にかかったのは一度だけ。現存も元気に趣味の編みものを続けています。子供七人、孫八人、ひ孫十一人。寒川町出身。

②相原甲子郎さん(97歳)

長生きの秘けつは「頭使って気を使うな。関東大地震の惨状が最大の思い出。子供八人、孫二十三人、ひ孫十五人。相原さんの剣舞は敬老会の名物。

③美濃津直さん(96歳)

知識欲が旺盛で、文学・歴史小説を読むのが趣味。現在はテレビ観賞を欠かしません。牛乳と卵が好物。子供三人、孫十八人、ひ孫七人。山口県徳山市出身。

④鈴木ツマさん(96歳)

草取り、野菜作りが日課。動きが軽いため、大谷から嫁に。当時、キツネによく化された。思い出に残るものはないが、世の移り変わりにビックリ。子供五人、孫十人、ひ孫十二人。

⑤田村小竹さん(95歳)

肉類が好物。プロレス、相撲が大好きで、特に相撲はテレビを見ながらいつも星取り表をつけています。

⑥長野ヒデさん(95歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑦田口スエさん(95歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑧塩月秀吉さん(94歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑨三浦み祿さん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑩赤木タヨさん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

私たちは950歳!



長生きのひけつは

関係をたいせつにする人です。はお子さんの丹、孫十八人、ひ孫十八人。山梨県甲府市出身。

⑪赤木タヨさん(93歳)

長崎県長門郡出身。八十過ぎまで

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑫三浦み祿さん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑬赤木タヨさん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑭三浦み祿さん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑮赤木タヨさん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑯三浦み祿さん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑰赤木タヨさん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑱三浦み祿さん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑲赤木タヨさん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

⑳三浦み祿さん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

㉑赤木タヨさん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

㉒三浦み祿さん(93歳)

食事は野菜中心。四十二歳のとき、ご主人が先立たれてからは、女手ひとつで八人の子供を育ててこられました。正直で、特に人間

㉓赤木タヨさん(93歳)

文化講演会

入場無料

講師 作家 渡辺淳一氏

さまざまな才能

とき・ところ=10月26日(土)午後2時~3時半、市文化会館/定員=1,100人/申し込み=電話かハガキで市立中央公民館(上郷476-2 ☎32・3231)



フットピックス

3千人が来場

「福祉のつどい」開かれる
「ともに築くふれあいのまつり」をテーマに、今年も福祉のつどいが八月二十五日、市立

総合福祉会館で開かれた。
このつどいは、各種の催しを通して心身障害者、一人暮らしのお年寄り、母子・多家庭などやボランティア、市民の方々が交流を深めるため毎年行われているもので、今回は約三千人が参加した。



歌謡ショーも行われ、

慢のお父さんが挑戦するひと幕も。
また、各福祉団体も金魚すくいやヨーヨーなどの模擬店を出店。商品はおもちゃ、干パンとあって、かき氷、ポップコーンなど売りが切れるなる店が続き、参加者からは「盛りださん」の催しで、楽しい一日でした。という声も聞かれた。

「もしものとき」
柏中で市総合防災訓練

「もしものとき」を備え、九月一日、柏ケ谷中学校グラウンドで「市総合防災訓練」が行われた。大地震が発生するという想定で、午前九時半のサイレンを台図に今回の対象地区の柏ケ谷、上今泉六丁目、住民約千五百人が避難。日曜



次々と各階に避難

日いつともあつて会場には防災すきをかけた親子連れが目立った。
会場では自治会会員の初期消火、応急手当訓練が行われたほか、ヘリコプターやバトカーによる救援物資緊急輸送などの各種訓練が

全国大会で入賞

はじこ登はんで市消防職員が
八月二十三日、広鹿市の中央公



全国大会で入賞した片野消防士

園で開かれた「全国消防救助技術大会」に出場した市消防本部の片野消防士が、はじこ登はんの部で入賞した。
はじこ登はんとは、登はん者が塔前五段からスタートし、体にロープを巻き金具をつけて、四十三秒以内で駆け登って、その確実性をアピールを評するもの。片野消防士は六月から約一月間猛練習を重ね、県大会三位、関東大会十二位と上位入賞し、今回の入賞となった。

河原口Aが優勝

ゲートボール市民大会
八月十八日、中新田小学校で「第三回ゲートボール市民大会」が開かれた。
同大会は、ゲートボールを通し



38チーム約30人が会場に集合

て世代間の交流を深めるため毎年一回行われているもので、チームには二十歳以下、二十一〜六十歳未満の人が最低一人は含まれていることが条件になっている。
当日、会場には九歳から八十歳までを含む三十八チーム約三百人が集まり、猛暑にも負けず好試合を繰り広げたが、特に夏休みを利用して練習を続けていたレジャータチの見事なパフォーマンスが目立った。
結果は、河原口Aチームが同地区Dチームを二十一対十四で破り優勝。同Aチームの浅沼裕松監督(中心)は「日々の練習の成果とチームワークの良さが勝因」と語っている。二位は河原口Dチーム、三位は中野チーム。

父親大会

父親は人生の道標

特別講演「能の知恵」
パネル討論「親父、何をすべきか」



能を演う中森晶三氏

- 講師 観世流能楽師範 中森 晶三氏
- パネラー 今泉中学校長 竹内 清氏
- 国学院大学講師 三雄氏
- 市PTA連絡協議会会長 浜田 三雄氏
- 寺田 勇夫氏

とき・ところ=10月12日(土)午後0時30分~4時半、市文化会館、申し込み=10月5日までに社会教育課(内251)まで。

海老名むかしむかし

上今泉産川の目久尻川のほとりに、近くに散住している井上二族の墓地があり、そこに変わった石塔が一本ある。
塔が一本あるといつても、形や飛名が変わっている訳ではなく、どこにもある七石石の表面に「幻想道中信士」という世間並みの飛名が刻みこんだ。ありふれたものだが、側面に俗名坂東又太郎とあり、台には発起者菊田伊左衛門一平として役者の名前がすらりと並んでいる。こうした石塔は普通在家の墓地で見掛けのものではない。

かを売り師匠にまからむので、破門されて一座から追い出されてしまった。周囲のものがその三風を憎んで、(む)をに入れてやり師匠も復讐を許さず、一座に戻らず江戸を売って放浪し、流転の果て産川の木賃宿に草鞋(わらじ)を脱いでいた。その

坂東又太郎と地芝居の興隆

と昔井上の総本家の後家と知り合いの講義子となって入りこんだ。又一いつ一人息子がいたが十五歳の時は病気で死んでしまったので、その後この夫婦はあるに任せ養育(せいたく)もなす。なすを送っていたというが、いも腫(か)つお、節の味噌(ね)漬けを肴(さかな)か、酒を飲んでいささか、これは通人には最高の肴(さかな)という



坂東又太郎の墓(井上茂揮氏に農作業の台の間をぬって案内してもらう)

権太が当たり役だったが、自慢、権太の着るとして作る程の身の内方だった。地芝居の衣装を作るとはさすがに大それた井上家の屋号(やうごう)だ。とみな驚いたというが、その雲の細かさも人はずなれして

期に(衣)でせよわいなからでてらにすきである」ととあえてらを着せたのだという。とある。「権の木場(権)の実地ともいこの舞台を見ればなる程と太郎の説も納得できる。

海老名むかしむかし
☎33-3838
海老名の昔ばなしが電話で聞けます。

「若旦那(たんな)は丈も十分あるし男前もいし、苦み走ったいい権太でしたよ」とは、当時井上家の下男をしていて、よくお供をして歩いたというから度々聞かされた話である。
それ程の名優ではあったが、役者の宿命ともいふべき絶命のため喉(のど)や関節を侵され、晩年は不幸に終わり、最後には暖(ぬ)しやが、れた声で「水、水と水ばかり飲んでいたい」ということである。
没年は明治四十二年三月二十四日で、六十二歳だった。
(大谷の小島直司氏寄稿)